

ポポコ新聞

[Ponpoko News]

第 68 号



=発行=

2018年3月25日

喜多見ポポコ会議

<http://ponpoko.jp.org>

竹山市民緑地 が進化中



次大夫堀公園の南、子どもの遊び場に隣接する「喜多見五丁目 竹山市民緑地」が進化を続けています。市民緑地を維持管理している一般財団法人世田谷トラストまちづくりの小林宏志さんにお話を伺いました。



市民緑地制度 とは

都市に残された民有地のみどりを保全する制度です。世田谷区では、世田谷トラストまちづくりが土地所有者と契約を結び、維持管理を行っています。市民緑地に指定されると、所有者はみどりの維持管理や固定資産税・都市計画税・相続税について優遇措置を受けられるメリットがあります。

区内で一番広い

竹山市民緑地は昨年八月の市民緑地契約の更新で二、九一九・五三㎡から三、八四七・七九㎡に拡大しました。もともと世田谷区内に今ある市民緑地の中で一番広がったのが、これでダンツの一番になりました。

マダケ林を再生してみよう

これまでの範囲はモウソウチク(孟宗竹)だけでしたが、追加された範囲にはマダケ(真竹)もあります。モウソウチクは中国原産、えぐみの少ない食用のタケノコが収穫でき、喜多見では市場に出荷もしていました。マダケは弾力性があり長持ちするので、ざるや籠などの生活道具を作るのにもよく使われました。



ボランティア 竹山市民緑地では、毎月第2・4火曜日の10~12時、活動人数は平均10人くらい、随時募集中

竹林お手入れ体験 掘ったタケノコは持ち帰れます!

[日時] 4月22日(日) ①10時半~12時、②13時半~15時
[参加費] 大人500円 子供200円(未就学児無料、会員100円引)
[定員] ①② 各20名(抽選) [申込締切] 4月10日
[申込] 世田谷トラストまちづくり 電話6417-3312

もっと頑丈に作ってやる!

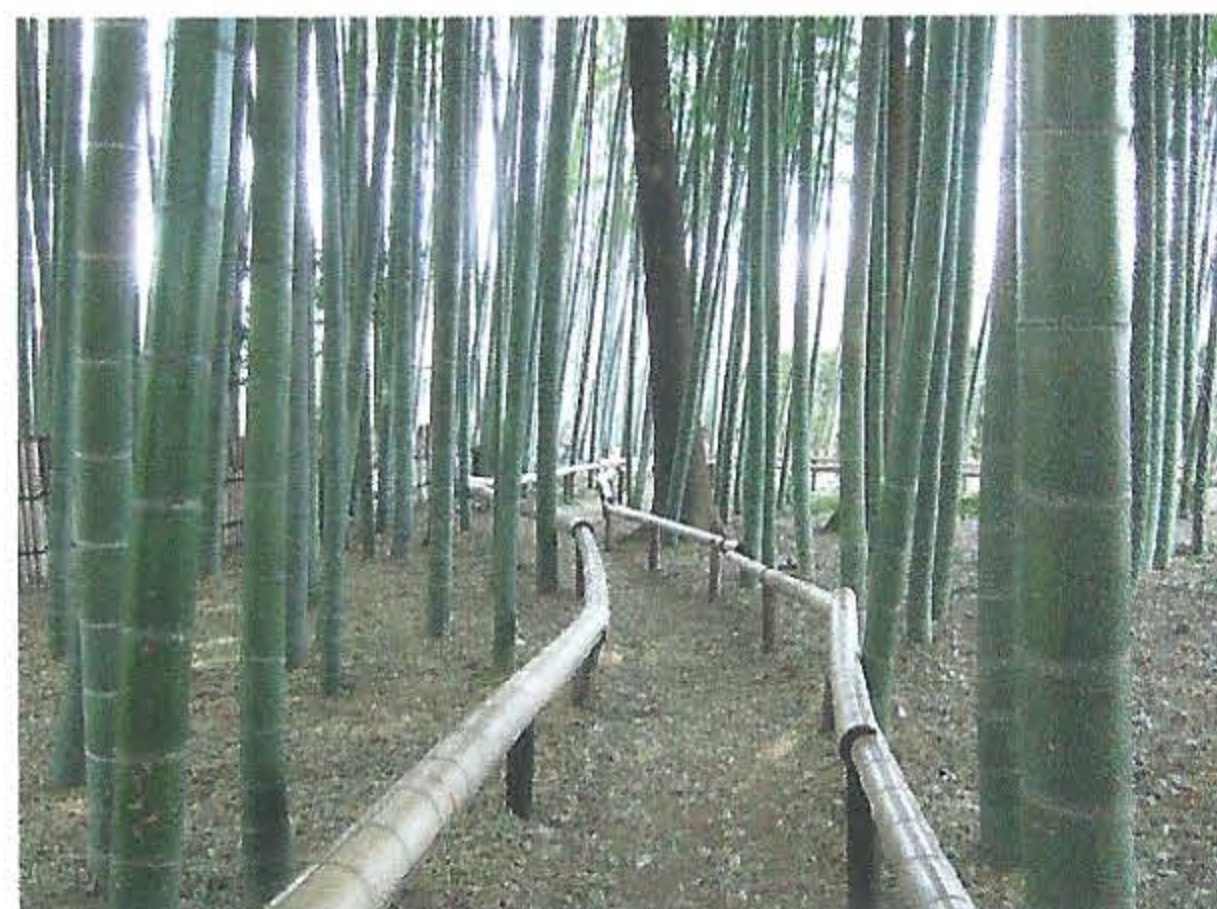
こつこつした竹の間引き、草刈り、園路づくりなどを行っているのが、「竹山市民緑地ボランティア」の皆さんです。隣の公園から緑地へと進出してくる子ども達もおり、元気が良すぎて園路の柵などが壊れてしまうこともあるそうですが、ボランティアさんたちは「こんちくしょう、もっと頑丈に作ってやる!」と闘志を燃やしているようです。

タヌキもびびり入り

新たに追加された場所では、タヌキを見かけるといふ目撃情報があり、ため糞や足跡も見つかっています。「喜多見は自然が一方所だけに集中するのではなくモザイク状に残っている環境があるからタヌキもいて、この緑地はタヌキのお気に入りの場所の一つなんですよ」と小林さん。

間伐した竹の処分が悩み

そんな中、悩みは年三百本以上になる間伐竹で、今はお金を払って処分しています。夏は流しそうめんに、年末



孟宗竹と園路、上のタイトルバックは真竹。真竹のほうが緑が濃いのが分かります。

は正月の門松にと持っていく方もいますが、微々たるもの。今年一月には、鎌田南睦会が多摩川河川敷で正月のしめ飾りなどを燃やす「どんど焼き」のやぐら用に「とって行ったり、取材に伺った日には、桜上水の「土と農の交流園」で畑を仕切るために使う竹を伐り出しに来た方々もおられました。「利用したい方はボランティア活動に体験参加してもらえれば提供できます」とのこと。

地域の方に利用してほしい

これまでは公園側からしか入りできませんでしたが、整備して出入口が一方所になったので、「通過するだけでも結構ですから、地域の方に来て利用していただきたいんです。

運が良ければタヌキにも会えるかもしれません。

キャリア教育



三富さんと岩沢さんは喜多見小卒業生です

喜多見小学校では、子ども達が進路を考える参考になるようにと、6年生向けに「キャリア教育」を行っています。今年2月3日、学年全員が1つの部屋に集まって講師3人の話を聞くということで、取材しました。

講師は、児童館職員の村松将典さん、『ポンポコ新聞』でも紹介した慶大卒プロレスラー・三富政行さんとイケメンパティシエ・岩沢泰良さんです。「教育」を意識しながら今に至る経緯や仕事内容を伝える村松さんと三富さん、美味しいのは当たり前で今は見栄え重視というスイーツの華やかな世界をスライドで説明する岩沢さん、後ろから見ていると皆興味津々なのが分かります。

子ども達との質疑応答も楽しくて、個人的には特に村松さんの「子どもの頃は本屋になりたかった」「なぜ?」「家から本屋が遠くて気軽に行けなかった、ここから成城くらい」「え～全然遠くな～い!」という子ども達の反応に、喜多見の子ども達の意外な逞しさも感じて嬉しくなりました。

籠屋 秋元商店



狛江市駒井町3-34-3、電話3480-8931

砧浄水場からガソリンスタンドの前を和泉多摩川方向へ進むと、セブンイレブンの手前に、話題の酒屋があります。

籠屋(かごや)は、明治35年に籠屋商店としてこの地に創業。屋号は創業当初、裏で竹細工の籠を作り、表の店で売っていたことからきています。2階に日本酒、1階に焼酎、ワイン、果実酒を中心に並べ、「日本全国には小さいながらも一生懸命酒造りをしている蔵元が沢山あり、その造り手の情熱やこだわりが詰まった最高のお酒を届けたい」と若い方々が頑張っています。

2012年には狛江特産の枝豆を使った発泡酒でも話題になりましたが、この時は市外のメーカーに醸造を委託しました。そこで、より本格的なものづくりをしたいと昨年10月、発泡酒製造免許を取得、店舗横に新設した醸造所で11月から狛江市内産等のホップを使ってビールの仕込みを開始、同時期にレストラン「籠屋たすく」も新設しました。

お酒の入荷状況やイベント情報はウェブ(houzan.com)をご覧ください。

砧小の記念樹



2008年撮影の「百年桜」

砧小学校は、明治35(1902)年に喜多見尋常高等小学校と朝陽尋常高等小学校が合併したのが始まりです。

創立時に喜多見小からアオギリ2本、朝陽小からソメイヨシノ2本が移植されました。このソメイヨシノが百年桜、2本あるので夫婦(めおと)桜とも呼ばれていました。どちらも弱ってきたため樹木医に相談し、アオギリは昨年11月と今年2月に太い幹の上部を伐り、萌芽を待っているところです。ソメイヨシノも樹勢回復のため昨年11月に一部の枝を伐りました。3月15日に拝見するとソメイヨシノは蕾を沢山つけていたので、順調に回復しているようです。

このほか2002年の創立百周年記念に寄贈された、京都・平安神宮の桜の妹、ヤエベニシダレもあります。

春休み期間の3月24日から4月5日(8:05~16:30)は門が開放されており、これらの樹々を見ることが出来ます。

* * *

現在の喜多見小学校は昭和47年に学区を変更して新設されました。喜多見の通学区は、1~5・7丁目喜多見小、6丁目砧小、8・9丁目明正小です。

手直し開始



雨などの影響で工事が遅れています

2012年度、喜多見大橋付近は多自然川づくりの工法で河床整備工事が行われました。しかし翌年度の工事排水の影響で右岸側にみお筋が偏り、悪臭が発生、魚も棲みにくい状況が続きました。また、中野田橋付近と雁追橋付近でも同様の事態が発生しました。

前号の新聞で「11月頃から3カ所で手直し工事が実施される予定」と書きましたが、その後も調整した結果、今年度は喜多見大橋付近と雁追橋付近の2カ所で3月中旬から4月にかけて手直し工事が行われることになりました。

INFORMATION

春の野川ガサガサ

[日時] 5月19日(土)

ごみ拾い 9:30~10:00

ガサガサ 10:00~11:30

[持物] 川用の靴、あれば玉網・バケツ

[集合] 次大夫堀公園築山横の野川階段

[申込] 喜多見児童館tel. 3417-9151